

# 終戦80年 戦跡記念碑をたどる—セントーサビーチ

史蹟史料部

終戦80年を迎え、史蹟史料部ではシンガポール政府が島内30カ所に設置した戦跡記念碑をめぐり、ウェブサイトにてご紹介しています。

戦跡記念碑はナショナルヘリテージボードによって設立されたもので、1995年当時は島内11ヶ所にありました。本を広げたような形の碑で、英語、マレー語、中国語、タミール語、そして日本語でそれぞれの場所の当時の歴史的事実を銅板に刻み、後世に伝えています。1995年8月15日から9月15日の1か月間は、ローカルの小中学生に参観させ、当時の次世代を担うシンガポールの若者に国家防衛の必要性を教育していたそうです。現在は記念碑が増え、島内30カ所にあります。それらのほとんどは公共の場所に設置され、誰でも訪れることができますが、11番目のセントーサビーチだけはセントーサゴルフクラブの敷地内セラポンコースに現存しており、クラブの会員の方および招待者のみ入場が可能となっています。

島全体の3分の1を占めるセントーサゴルフクラブは1982年に開場し、「セラポンコース」と「ニュートンジョンコース」の36ホールがあります。セラポンコースはSMBCシンガポールオープンの会場にもなっていたアジア屈指のトーナメントコースです。

今回は史蹟史料部で、クラブを管理するSentosa Development Corporationを訪問し、環境管理部レクリエーション拠点ユニット副マネージャーのサイフラーさんにご案内いただきましたので、見学させていただいた軍事遺跡と戦跡記念碑をご紹介します。

セントーサ島(旧名:ブラカンマティ島)は海峡の要衝としてイギリス軍が多数の砲台や施設を築き、セラポン砦や近隣の砲台群が沿岸を守っていました。これらの軍事設備の補助施設として小さな栈橋や係留場が沿岸にあった記録があります。今回まずご案内いただいたのは、古い栈橋でした。メンテナンスを行っていないため、栈橋に近づくことはできませんでしたが、かつての砲台・軍施設への物資輸送のための施設として使われていた栈橋跡が残っていました。



カートにてご案内いただいた広いゴルフ場



セラポン栈橋跡

## バーハラ・リピンの軍事遺跡

セラポンコースの東端付近はかつてはバーハラ・リピンという名の小島で、軍事目的で使われており、19世紀末(1890年代)から1956年まで、沿岸砲台(海軍基地・船雷攻撃防御=AMTBバッテリー)の1つとして機能していました。現在もその施設が残っています。



バーハラ・リピンに残る軍事施設

第二次世界大戦前、1941年には双連装6ポンド速射砲台として改装され、夜間警戒のための照明弾・探照灯(サーチライト)設備も整えられました。現在も修復を続けて保存され、中に入ることもできました。



サーチライト設備

これらの軍事施設は終戦後にイギリス軍が自ら破壊した場所もありましたが、旧砲台の4つの構造(砲座、指揮塔、地下施設、探照灯跡)はまだ残っているそうです。



サーチライト設備内部



砲塔とエンジン施設跡



イギリス軍が自ら爆破した階段跡



ジャングルの中に残る軍事施設を見学



観測スリット内部

バーハラ・リピンと、弾薬を運ぶためのトロッコ列車の線路が走るコンクリートの橋で繋がった場所に、今回の訪問の目的であった戦跡記念碑がありました。

戦後の調査や証言によると、1942年の日本軍によるSook Ching (肅清)の犠牲者の遺体が、当時のこの海岸の砲台付近にある海岸線に流れ着き、多くが埋葬されたという記録があります。300発もの銃弾を受けたそれらの遺体は、海上で銃撃されたり、他の海岸で処刑された後に漂着した肅清の犠牲者たちでした。遺骨は1970年代まで島で発見され続けました。

バーハラ・リピンは単なる軍事遺構ではなく、戦争とその犠牲の記憶の場所でもあります。



セントーサビーチに設置された11番目の戦跡記念碑

以前はこの場所から軍事施設が見えたようですが、現在はマングローブが生育し、自然と歴史の融合した場所として維持されています。



かつてのバーハラ・リピンに繋がる橋の風景  
(出典:Sentosa Development Corporation)



現在の橋の風景

ブラカンマティ島は天然の要塞のような地形で、両側の海峡を通る船を砲撃できる位置にあるため、島中に砲台が設置さ

れていましたが、日本軍はジョホールからコーズウェイを渡りシンガポール北部に侵攻したため、この砲台は実戦では使われなかったようです。

また日本軍の占領時代(1942~45年)、ブラカンマティ島はKashima Island(鹿島島)と改名され、鹿島神社が建立されたという記録があります。神の使いとされる鹿も飼育されていたようです。

現在のシンガポール・アイランド・カントリークラブの一部の場所に建立されていた昭南神社と同様に、終戦時に日本軍が自ら爆破したため、正確な場所は特定されていません。



鹿島神社(出典:Sentosa Heritage Guide)



(左から)四十万理事、サイフラーさん、高野部長

現在はリゾート・アイランドとして人気のセントーサ島ですが、80年前には痛ましい戦争の歴史があり、そのいくつかの場所は現在も保存されています。

今回ご紹介した戦跡記念碑は一般の立ち入りが制限された場所にありますので、セントーサ島で戦跡を辿るのであれば、公共交通機関で行くことができる西部のシロソ砦やセントーサ・ヘリテージ・トレイルを訪ねてください。

ご案内いただいたサイフラーさんにお礼申し上げます。



戦跡記念碑特集ページ

取材協力:Sentosa Development Corporation  
参考文献:FORT SILOSO BLAKANG MATI、UNTOLD TALES OF SENTOSA(SENTOSA HERITAGE GUIDE)

文責:両頭真衣